



志楽小学校だより

舞鶴市立志楽小学校
平成29年度学校だより
第8号
平成29年11月1日発行

一人一人のよさを大切に、可能性を拓く



一雨ごとに寒さが増し、秋の深まりを感じます。

超大型の台風21号は、過去の教訓を活かし早めの対策をして備えられていましたが、舞鶴市でも猛威を振り、床上浸水や土砂災害などがあり、日本各地に甚大な被害を及ぼしました。志楽小学校の児童宅も床下浸水や家屋の被害があったと聞いています。台風22号も雨が降り続いた後でしたので心配しました。被災された皆様には、お見舞いを申しあげるとともに一日も早く平常の生活を取り戻されますようお祈りします。

さて、10月は、運動会、持久走大会と、**自分の力・集団の力を高める取組**を通して、目当てに向かって友達と一緒に物事を成し遂げる喜びや、自分の力を出し切る達成感を味わったことと思います。そのたびに、保護者様をはじめご家族、地域の皆様には、大きな拍手や声援をおくっていただきましてありがとうございました。また、16日には、さくらこまち和楽団の皆様をお迎えし、地域・保護者の皆様と和楽器の演奏を鑑賞することができました。**文武ともに充実の秋**を迎えています。



現在、オープンスクールウィークです。普段の授業風景も見ていただくと有難いです。

11月は、学校では**人権旬間**や**いじめ対策強化月間**の取組を行います。新聞などで「いじめと認知された件数は、全国で32万件」等、ご覧になったことと存じます。志楽小学校では、常に子どもたちの人間関係に目を向け、気になる状況を見かけたら、すぐに対応するよう心掛けています。今後も、**自分も人も大切にできる取組**を進めていくと同時に、2日に配布するお知らせのとおり、捉えた事象については、解消に向けて支援や見守りを継続していきます。心の安定と優しさを、ご家庭や地域の皆様と学校でともに協力して育てていきたいと存じます。今後もお気付きの点がありましたら、お伝えいただきますようよろしくお願ひいたします。

地域の皆様の温かいご支援により、21日には、地域のシルバーさんとダイヤモンド協議会の皆様、PTA有志の皆様が**志楽川沿いの通学路の草刈り**をしてくださいました。子どもたちが持久走大会で気持ちよく走れるようにと毎年ご支援をいただいています。あっという間に通学路がすっきりとし、学校裏のフェンスに絡まるツタまでとってくだり、学校が明るくなったと感じるほど、きれいにしてくださいました。防犯上もよく見通せて安心です。地域の皆様の学校を愛し、子どもたちを応援して下さるお気持ちに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

2学期の振り返し、宝物がいっぱいつまった子どもたち**一人一人のよさを大切に**、各自が自信を高められるような教育活動を充実させて、舞鶴市が目指す「ふるさと舞鶴を愛し 夢に向かって将来を切り拓く子ども」、本校教育目標の「自ら学び、自分の可能性を切り拓く子の育成」の実現へ向けて、さらに日々の取組の充実を図っていきます。

校長 村川 広美
教職員 一同

日々に新たに...

「ありがとう」は、すてきな言葉

運動会の前日の朝のことです。六年生の男の子が、

「校長先生、スポンジが干してあるのは？」と私に、話しかけてきました。

「そう、朝早く、先生方がグラウンドの水取りをしてくださったんですよ。」

と答えたと、すかさず、「ありがとうございます。」

と言ってくれました。また、「雨の上がった朝の裏門の入り口は、いつも水たまりになってしまします。パトロール隊の方が、ほうきで水たまりの雨水を掃き取ってくださっている」と、ありがたう。」

と語りながら、三年生の女の子の姿がありました。行為の奥にある見えない「人を思う気持ち」を汲み取り、ありがたうが伝えられる子どもの姿に心が和みます。日々の学校生活における人のかかわりの中で、そうした子どもたちの「人を思う気持ち」を見逃さないようにしたいです。

これからの時代を生きる子どもたちに

今の子どもたちが社会を担う時代は、予測不可能な変化の大きい時代とされています。人工知能(AI)の台頭やグローバル化、日本では少子高齢化などにより生産人口が減ることも課題です。アメリカの教授が「子どもたちが大学を卒業するとき、その六十五%が、現在は存在していない職業に就くだろう」と予測し、注目を集めました。先を見据えて、人工知能では代理が務まらない力や二十一世紀を生き抜く能力、例えば、チャレンジ精神・主体性・洞察力・発想力・対人関係力・など、変化に対応し、困難な諸問題を解決したり、立ち向かったりする力を意識して、学びに向かわせることが大切だと言われています。次代の「解のない問題に立ち向かう力」を育成するため、三十二年度から本格実施の**新学習指導要領**は、学習する子ども視点に立ち、育成すべき**資質・能力**を以下の三つの柱で整理しています。

「何を理解しているか、何ができるか」(生きて働く「知識・技能」の習得)

「理解していること・できることをどう使うか」(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)

「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)

日々の授業で、**基盤となる言語に関する能力**を高め、「主体的・対話的で深い学び」ができる授業を目指していきます。

